

はじめに

読書活動は、「子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身につけていく上で欠くことのできないもの」です。

近年、国民の「読書離れ」、「活字離れ」、子どもの「読書量の低下」が指摘されていますが、本市の各学校では、それぞれ工夫された読書活動が進められており、1か月間の平均読書冊数は増える傾向にあります。

幼稚園、保育所では、1日約3回の「読み聞かせ」が、全小中学校においては、一斉読書活動が実施されており、なかには、特色のある読書活動を推進し、実績を上げ、高い評価を得ている学校もあります。

読書好きな子ども、読書習慣のある子どものまわりには、読書の楽しさ、すばらしさを教える先生や親がいるという結果が出ています。こうした子どもは、自ら学ぼうとする習慣が身に付き、相手を思いやることができ、すべての生命を大切に思うようになると言われてしています。

これは、急激な変化とますます複雑化していく21世紀の社会を担う子どもたちにとって大事なことです。

このたび策定した『各務原市子どもの読書活動推進計画』は、家庭や地域、学校における現在の取り組みを踏まえながら、子どもの成長段階に応じた意欲的な読書へのきっかけづくりと習慣の確立、そして、それに至るまでの家庭、地域、学校それぞれの役割と連携協力を明らかにし、子どもが読書に親しむことができる環境や機会の充実などを目指しています。

今後においては、本計画に沿って、学校及び関係各機関、団体をはじめとした地域社会全体で子どもの読書活動推進に取り組んでいただきますよう、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

なお、本計画の策定にあたり、多大なご尽力をいただきました策定委員の皆様、心から感謝いたします。

平成21年3月

各務原市教育委員会